

## ご挨拶

「障害児基礎教育研究会（通称 水口研）は、創始者である故水口俊（みずぐちふかし）が、障害児教育のあり方を明らかにすることを目的に平成元年に設立したものです。

①特別支援教育に携わる教師及び作業療法士などの周辺職種や保護者等、障害のある子どもにかかわる多彩な人々が参加しています。

②「見る、見たものに手を伸ばす」など、初期の運動操作から概念形成・記号操作に至るまでの過程を独自の教材教具を開発し、教育実践に基づいて解明しようとしています。

③子どもと支援者である大人が、ともに学び合う存在として、人間関係を深めていくことを大切にしています。

これらを特色として、月1回定例の研究協議会や教材製作会を行っています。研究協議会は、会員にかかわらず、どなたでも無料で参加できます。

平成19年、水口俊は志半ばに逝去しましたが、その心は会員が受け継ぎ、それぞれの実践の場で、研究を深めています。教材教具を作ってみたい方、研究協議会に参加したい方は、いつでも下記にご相談ください。

障害児基礎教育研究会 代表 吉瀬正則

### <幹事>

#### ○事務局長

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| ・東京福祉大学・大学院     | 松村 緑治 |
| ・筑波大学附属大塚特別支援学校 | 立松 英子 |
| ・筑波大学附属大塚特別支援学校 | 根本 文雄 |
| ・筑波大学附属大塚特別支援学校 | 加部 清子 |
| ・筑波大学附属大塚特別支援学校 | 飯島 徹  |
| ・東京都立中野特別支援学校   | 長沼 潤子 |
| ・東京都杉並区立済美養護学校  | 大高 正樹 |
| ・東京都立鹿本学園       | 金子記美恵 |
| ・沖縄県総合教育センター    | 比嘉 展寿 |

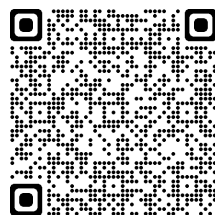
☆URL : <https://kisoedu.jp>

## □会場

障害児基礎教育研究会ホームページ  
及びyoutube動画配信



参加お申込みはこちらから



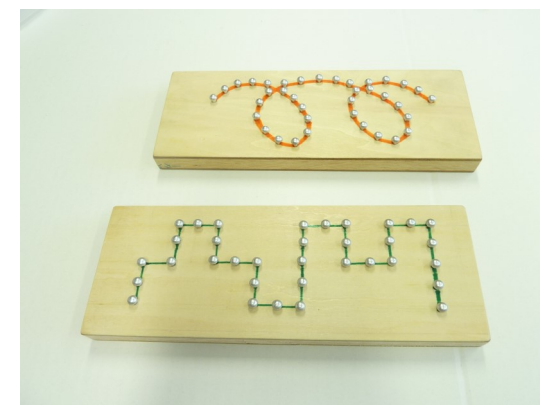
参加費（2000円）お振込み先

三井住友銀行高幡不動支店（店番号261）  
普通口座 1327611 障害児基礎教育研究会

第27回 障害児基礎教育研究会

# 教材 工夫 展

今こそ！  
ふれあいの道具としての教材教具



後援 全国特別支援教育推進連盟



## 第27回教材工夫展について

このたび第27回教材工夫展をオンラインで開催する運びとなり、幹事一同、再開を喜びつつ鋭意準備中です。新型コロナウイルス感染症（Covid19）が世界を震撼とさせた昨年は定例会をオンラインとし、教材工夫展の実施は諦めざるを得ませんでした。しかし、そのおかげで遠く沖縄や熊本、福井に住む会員の嬉しそうな顔を拝見することができました。新しくZOOM上で各自の創作教材の自慢大会を企画したところ、互いの距離を感じない親しさで、生き生きと意見交換をすることもできました。さらに、児童発達支援など福祉分野からも新しく会員を迎え、思いのほか研究会は賑わっております。

物の操作を通じて「わかる」ことの喜びがその人を支えていることを、私どもや保護者は知っています。「今こそ！ ふれあいの道具としての教材教具」は、本研究会の理念そのままの表現です。「教材工夫展」を通じて、年齢や障害の程度を問わない学びの喜びについて、多くの方と分かち合うことができたら幸いに存じます。

（研究会幹事：東京福祉大学 立松英子）



## 第27回 障害児基礎教育研究会 教材工夫展

- 日 時 2021年8月21日（土）  
—31日（火）
- 場 所 障害児基礎教育研究会ホームページ並びにyoutube動画配信
- テーマ 今こそ！ ふれあいの道具としての教材教具
- 自由観覧 期間中、これまでの成果や研究紀要の一部をホームページでご紹介します。  
  
期間限定で動画を配信します
- 代表挨拶 吉瀬正則（元明治学院大学特命教授）
- 教材紹介 動画配信
- 活用事例 参加者にはURLをお伝えします。
- 実践報告
- 研究紀要 第28集を発行予定。参加者に印刷版を配布いたします。
- 講 演 今こそ！ ふれあいの道具としての教材教具  
東京福祉大学大学院教授  
立松 英子
- 参加費 2000円  
ホームページを通じて支払方法を確認し、動画のURLを受け取り、各自ご観覧ください。



## 教材教具とは

- 1 手の操作を通じた、共通の言葉となる道具である。
- 2 大人の側からいえば、具体的で、予測のつく、発信と受信の道具である。子どもの側からいえば、わかりやすい受信に基づき学習の結果を発信する自己実現の道具である。
- 3 人間関係の成立のきっかけとなり、達成感を体得し、自己の可能性を発見し、そのよろこびを共感し、相互の信頼関係を深めていくふれあいの道具である。

2005年7月 「教材教具とは」より要約、抜粋



マッサージからコミュニケーションを始める  
研究会創始者 故水口 浚

